



自然観察

No. 94
2010
3月

目 次

・ 総会議案書案(概要)	2009年度事業報告	2
・	2009年度決算中間報告	4
・	2010年事業計画(案)	5
・	2010年予算案(暫定)	6
・	北海道自然観察協議会会則	7
・ 2010年 総会・講演会・懇親会のお知らせ		8
・ 観察会における小鳥とのつきあい方		9
・ 2009年度地方研修会「突哨山」報告		10
・ ウォッチングレポート		11
・ 2010年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い		12
・ フィールドニュース 函館市、長沼町、七飯町		13
・ 会計からのお願い		14
・ 参加者の声		15
・ 2010年度 自然観察協議会全道研修会のお知らせ		15
・ 事務局だより・理事会だより・緊急連絡先他		16



カラマツの雌花

2005/ 5/ 21 北見市緑丘

2009年度事業報告

1. 観察会の実施状況

(1) 一般観察会について

2009年度の観察会は、滝野の集いを除き、48開催が予定され、5開催の中止を除き現在(2/24)まで41開催が無事終了しました。

このうち報告書未着および報告書不備の2回を除く39開催について集計しましたので概要を報告します。

一般参加者数 延べ 608人

参加指導員数 延べ 183人

一般参加者の年代別集計に関しては、未記載が140名。例年同様50代、60代が年代記載者463名中、385名と約83%をしめています。

最終集計は4月の総会及び会報95号に掲載します。各観察会の実施状況はその都度会報に掲載しています。

(2) 滝野の自然に親しむ集い(第20回)について

場所：滝野自然学園とその周辺

実施日：8月 1日(土)～ 2日(日)

参加料：4,000円

一般参加者28名(子供16名・大人12名、10家族)

指導員10名 合計38名

今年度の自然観察ハイキングは滝野すずらん公園内に新しくできた「滝野の森」で行った。参加者には好評だった。

2. 指導員研修について

(1) 全道研修会

テーマ：火山とともに歩んできた自然と人間の歴史に触れよう

実施日：9月 5日(土)～ 6日(日)

場所：伊達市有珠湾周辺及び有珠山銀沼火口

会場：北海道立洞爺少年の家「ネイパル洞爺」

講師：安藤 忍氏(当会会員、洞爺湖有珠火山マイスター)、福田茂夫氏(当会会員、洞爺湖有珠火山マイスター)

参加人数：8名

(詳細は会報93号のp.6)

(2) 地方研修会

①「虫こぶ」のふしぎな世界を知ろう

場所：旭川市 嵐山公園、嵐山ビジターセンター

実施日：8月22日(土)

講師：南 常雄氏(嵐山ビジターセンター運営委員)

参加人数：11名

②森を読むー樹林の成り立ちと人との関わりを知るワークショップ

場所：旭川市 突哨山

実施日：10月17日(土)

講師：陣内 雄氏、清水省吾氏(以上、NPO「森ねっと」、山本 牧氏(当会理事))

参加人数：14名

カタクリ群落で知られている突哨山をフィールドに、森をどう守っていくかを考える研修会でした。(詳細は会報94号のp10)

3. 会報発行について

会報91号(6/15)、会報92号(9/15)

会報93号(11/15)、会報94号('10/3/15)

予定通り発行できました。

4. 組織の状況

2月末現在で会員数が約350名です。

5. 理事会・部会・事務局関係

(1) 総会・講演会

総会 2009年4月11日(土) 13:30～14:30

かでの2・7 730号室

講演会 4月11日(土) 14:30～16:00

かでの2・7 730号室

演題：森の守り神ニホンザリガニとそれを脅かす外来生物について

講師：齊藤和範氏(ザリガニ探偵団主宰、旭川大学地域研究所 旭川大学地域研究所 特別研究員)

(2) 理事会・各部会・委員会

理事会 6/30、8/17、10/15、'10/1/28、'10/2/24

研修部会

観察部会

編集部会 5/26、6/9、6/16、8/25、9/8、9/15、

10/27、11/10、11/17、'10/2/23、

'10/3/9、'10/3/16

(3) 事務局動向

・環境道民会議総会出席 5/25

・北海道環境生活部「環境行動キャンペーン09・春」に参加。(5月の観察会予定が環境道民会議HPに掲載、報告が「環境パレット」に掲載予定。

・インタープリテーションネットワーク・ジャ

パン主催「インタープリテーション全国研究
交流大会in北海道札幌」(11/21) 開催呼びか
け人

(4) 忘年会

11月29日 札幌 旬風処 遊-ゆとり-

(5) 救急救命講習会

2010年2月1日 札幌市かでの2.7 920研修室
講師：日本赤十字社北海道支部、(財)札幌市防
災協会
参加：9名(会員9名、一般3名)

(6) 北海道自然観察協議会のホームページ

観察会予定、観察会報告等随時更新。
HPアドレス <http://www.noc-hokkaido.org/>

(7) 観察会の広報

(財)日本自然保護協会「自然保護」、
(財)北海道財団 北海道環境サポートセンター
「TIGL」他、自然ウォッチングセンター「北海道ウ
ォッチングガイド」、札幌市環境局環境部都市推
進部推進課「えこぼろ」
北海道新聞、読売新聞、毎日新聞、朝日新聞、オ
ントナ、地元新聞、おしゃべりカラス

6. 他機関との連帯、交流

(1) 講師派遣

・厚別中央地区社会福祉協議会 厚別中央地区
福祉のまち推進センター主催 森の散策会
「森へいこうよ」 6名 6/23

(2) 共催・後援等

・「カタクリの森」観察会 北見市端野町歴史民俗
資料館・たんのカタクリと森の会共催
5/1~5/4、6/27、9/12
・「滝野の自然に親しむ集い」札幌市教育委員会
後援 8/1~8/2
・「北大構内かんじき散歩と雪氷観察会」札幌市
教育委員会後援 1/9
・厚沢部町教育委員会主催「平成21年度生涯学習
教養文化講座・あっさぶ少年少女体験塾 レ
ク森観察会」 当会が後援 4/25、6/25、8/1

7. その他

(1) 観察会カード配布

・北海道電力(株)科学であそぼ「おもしろ実験
室」 5部
・土橋もりもり倶楽部 30部

(2) 寄付・寄贈

・加藤アキ氏(札幌) 寄付 5万円

・横山明光氏(酪農学園大学環境システム学
部地域環境学科 教授、当会会員) 寄贈
1/28

◇2007年度卒論「自然観察会のすゝめ」

～現代の自然離れにおける自然保護意識
について～久保田さちえ(当会会員)

◇2008年度卒論「楽の央学園キャンパスを
活用した「自然観察会」の開催」～宇宙船
地球号の乗組員としての意識付けをねら
って～ 堀内 大

・(財)郵政福祉 会長 永原栄氏 寄贈

はがき(かもめーる) 58枚 7/22

[北海道ボランティア・市民活動センター
(北海道社会福祉協議会)]経由

【備品・分野別ガイド】

☆観察会用物品

観察会に使用したい方は保管先へ申し込んで
ください。

- ・実体顕微鏡(ニコンファープルミニ) 2台 ・タモ網 30本
保管先 根岸 徹(厚別区) Tel 011-891-0556
- ・大型旗(120×180) 1枚 ・小型旗(35×43) 3枚
- ・ポール(折りたたみ式) 3本
保管先 北道米雄(中央区) Tel 011-520-0700
- ・トリプルバグビューア 5台
保管先 山形誠一(中央区) Tel 011-551-5481

2009年度 決算中間報告

2009年度中間報告(2月18日現在)

収入の部

単位(円)

項目	予算額	2月18日現在	増減	摘要
前年度繰越	587,267	587,267		
会費	438,000	468,500		会員362名(新会員2名)
雑収入	600	50,567		利子 寄付金
観察会参加料	70,000	53,450		観察会保険料・資料代
合計	1,095,867	1,159,784		

支出の部

単位(円)

項目	予算額	2月18日現在	増減	摘要
事務費	通信費	60,000	24,075	切手代 はがき 郵送費
	消耗品費	30,000	11,450	用紙 印刷代
	会議費	50,000	37,190	理事会・部会会場費
	小計	140,000	72,715	
会報費	会報郵送費	130,000	90,140	会報3回発行(クロネコメール便)
	印刷代	230,000	137,695	印刷所へ支払い
	ラベル代	4,000	4,200	
	封筒印刷代	30,000	26,000	角2封筒2000枚
	原稿謝礼代	5,000	0	
	通信費	15,000	9,490	編集部関係の通信費
	消耗品費	10,000	1,220	セロテープ コピー代
	小計	424,000	268,745	
活動費	観察会費	70,000	41,040	参加者保険、配布資料、振込手数料
	総会開催費	50,000	34,100	会場使用料 講師謝礼
	全道研修費	50,000	37,548	講師謝礼 会場使用料 資料代
	地方研修費	50,000	29,500	講師謝礼 会場使用料 資料代
	指導員講習会費	0	0	
	救命救急講習会	16,000	14,130	講師派遣費 会場使用料
	用具費	20,000	0	
	雑費	12,000	1,980	
小計	268,000	158,298		
30周年積み立て	30,000	30,000		
予備費	233,867	0		
合計	1,095,867	529,758		

2月18日現在収支残高

収入 1,159,784 円

－

支出 529,758 円

2月18日現在の残高

= 630,026 円

30周年特別会計

2008年度繰越金	660,000円
2009年度積立金	30,000円
2009年度繰越金	690,000円

*3月末の決算額は総会と次号会報で報告します。

1. 観察会の開催について

- (1)今年度の観察会実施計画は別表「2010年度自然観察会予定表」の通りです。今回掲載以外にも企画があれば観察部山形へご連絡下さい。できる限りバックアップしたいと思います。
- (2)各観察会連絡担当者の方は、観察会一般参加者名簿、指導員用名簿及び10年度観察会予定表など、観察会で使う用紙の必要枚数を観察部山形までご連絡ください。
- (3)観察会の報告書は観察部山形へ、保険料など現金は観察部会計小川へ送付ください。振り込みを利用する方は、会計（小川）へ申し出て下さい。印字済みの振込用紙をお渡しします。
口座番号：2770-9-34461（通常払込加入者負担の用紙）
加入者名：北海道自然観察協議会観察保険料
- (4)観察会の予定及び実施状況は、会報及び北海道自然保護協会のHPでお知らせします。
<http://www.jade.dti.ne.jp/~nchokkai/kansatsu.html>
- (5)各観察会で作成・使用した資料を収集しています。会員が閲覧利用できる仕組みを検討中です。観察会報告書に同封するなどご協力下さい。
- (6)観察会の下見会を、会員同士の交流と研修の場として活用して下さい。
- (7)団体などから観察会の要請があれば、事務局が窓口となり一括して指導員派遣の要請を受けていきます。
- (8)観察部では備品の充実をはかって行きたいと考えています。また現在保管している備品についても有効な利用法を検討して行きたいと考えています。
- (9)共催で協議会の保険を使う場合は、参加者名簿と一人当たり50円の保険料を協議会へ送ってください。ただし、一泊二日以上は該当しません。
- (10)「第21回 滝野の自然に親しむ集い」は、滝野実行委員会（委員長・事務局・編集部・観察部・研修部各1名選出）で組織して7月31日（土）～8月1日（日）に滝野自然学園で実施予定です。

<観察会事故緊急連絡>

事務局へ連絡をお願いします。

Tel/Fax011-707-5621

保険会社： アスカ・リスクマネジメント 本間氏 Tel 011-873-2655 普通傷害保険(エース損害保険(株)) 死亡保険：500万円 入院保険金額：5,000円（180日以内） 日額 通院保険金額：2,500円（90日以内） 日額

2. 指導員研修について

- (1) 全道研修会
日時：7月24日（土）～25日（日）
場所：サロベツ原生花園、ベニヤ原生花園他
テーマ：道北の7特定植物群落を巡る
概要：（同封の案内参照）
講師：
- (2) 地方研修会
 - ①日時：10月18日（土）
場所：旭川市 神楽岡公園
テーマ：ネイチャーゲーム研修会
講師：松田章子、松田利一（社）日本ネイチャーゲーム協会公認ネイチャーゲームインストラクター）
 - ②日時：未定
テーマ：マメ科植物の徹底解剖
場所：未定
講師：未定

3. 会報発行について

会報95号 6月15日、会報96号 9月15日、
会報97号 11月15日、会報98号 '11年3月15日
事務局ほか各部などの原稿は、発行日の25日前までをお願いします。同封書類は事前打ち合わせと、発送作業の時の手伝いをお願いします。

4. その他

- (1) 理事会
隔月開催予定
- (2) 忘年会
日時：11月27日（土）
- (3) 救急救命講習会
日時：2011年2月5日（土）
講師：（財）札幌市防災協会）、
日本赤十字社北海道支部。
- (4) 総会・講演会
日時：2011年4月9日（土）
- (5) 自然観察指導員講習会について
2010年北海道での開催予定はありません。
- (6) 個人情報保護法について
当会は対象団体ではありませんが、個人情報保護法を尊重し、入手した個人情報は、観察会活動の目的以外には利用しません。また保有する個人データは適正に取り扱い、第三者に提供することはありません。
会員名簿は外部に流出しないようにして下さい。
- (7) 観察会カードについて
20周年記念事業の一つとして作成した「観察会カード」を引き続き配布中です。希望の方は事務局へ連絡をお願いします。

2010年度 予算案(暫定)

2010年度予算案(暫定)

収入の部

単位(円)

項 目	2月18日現在	2010年度予算	増 減	摘 要
前年度繰越	587,267	530,000		
会 費	468,500	440,000		会員 350名
雑 収 入	50,567	200		利子
観察会参加料	53,450	70,000		観察会参加費(保険料・資料代)
合 計	1,159,784	1,040,200		

支出の部

単位(円)

項 目	2月18日現在	2010年度予算	増 減	摘 要
事務費	通信費	24,075	50,000	切手代 はがき 郵送費
	消耗品費	11,450	30,000	用紙 インクトナー 印刷代
	会議費	37,190	50,000	理事会・部会会場費
費 小 計	72,715	130,000		
報 告 費	会報郵送費	90,140	130,000	会報4回発行(クロネコメール便)
	印刷代	137,695	240,000	印刷所へ支払い
	ラベル代	4,200	5,000	会報送信用ラベル
	封筒印刷代	26,000	30,000	角2封筒印刷
	原稿謝礼代	0	5,000	
	通信費	9,490	15,000	編集部関係の通信費
	消耗品費	1,220	3,000	セロテープ 用紙
費 小 計	268,745	428,000		
活 動 費	観察会費	41,040	70,000	参加者保険 配布資料 振込手数料
	総会開催費	34,100	50,000	会場使用料 講師謝礼
	全道研修費	37,548	50,000	講師謝礼 会場使用料 資料代
	地方研修費	29,500	50,000	講師謝礼 会場使用料 資料代
	指導員講習会費	0	0	旅費 補助を項目変更
	救命救急講習会	14,130	15,000	講師派遣費 講師駐車代
	用具費	0	20,000	
	雑費	1,980	10,000	森と自然を守る会 盗掘防止ネットワーク
費 小 計	158,298	265,000		
30周年積立	30,000	30,000		
予 備 費	0	187,200		
合 計	529,758	1,040,200		

収支残高

収入 1,040,200 円 - 支出 1,040,200 円 = 0 円

30周年特別会計 (2009年度)

2009年度繰越金	690,000円
2010年度積立金	30,000円
2010年度繰越金	720,000円

*3月末の決算額は総会と次号会報で報告します。

北海道自然観察協議会会則

第 1 条 名 称

この会は北海道自然観察協議会と称する。

第 2 条 目 的

自然をとらとび、自然に学ぶ我々は、自然観察会活動をとらとして多くの人々と自然について語り、自然に親しみながら、自然と調和する方法を探求し、このかけがえのない自然をより良い姿で子孫に残そうとするものである。

第 3 条 事 業

この会は前条の目的を達成するために次の事業を行う。

1. 自然観察会等の育成指導
2. 会員の資質の向上を図るための研修会等の開催
3. 会員の親睦と団結を図り、地域の自然保護思想を啓発するための行事の開催
4. 会員相互の連絡と情報交換、研究資料等の発表のための会報の発行
5. その他、この会の目的達成のための事業並びに事業協力

第 4 条 会 員

この会の会員は、(財)日本自然保護協会が認定した自然観察指導員をもって構成する。

第 5 条 組 織

1. 会の運営のため、事務局をおき、総務、広報、会計をおく。
2. 会の事業遂行のため、観察部、研修部、編集部をおく。

第 6 条 役 員

1. この会に次の役員をおく。
 - (1) 理事 30名以内 会の運営、事業の執行等について審議し、議決に基づき実行する。
 - (2) 監事 2名 会の運営及び会計を監査する。
2. 理事および監事は総会において選出する。
3. 役員任期は2年とし、再任は妨げない。

第 7 条 役員職務

1. この会の役員職務は次の通りとする。
 - (1) 会長 1名 会を代表する。
 - (2) 副会長 若干名 会長を補佐し、会長に事故ある時は会長職務を代行する。
 - (3) 事務局長 1名 会の事務一般をまとめる。
 - (4) 部長 3名 各部に関する業務を行う。
 - (5) 総務 若干名 対外折衝等に関する業務を行う。
 - (6) 広報 若干名 事業に関する広報を行う。
 - (7) 会計 若干名 会計に関する業務を行う。
2. 上記の役員は理事の互選により選出する。
3. 上記職務の事務所はそれぞれの役員宅におく。

第 8 条 会 議

この会の会議は、総会及び理事会とし、会長が招集する。会議の議長は出席者の中から選出する。

1. 総会 毎年1回開催し、会の運営及び事業の執行等全般について決定する。
2. 理事会 必要に応じて開催し、事業の執行等について審議する。

第 9 条 会 計

1. この会の経費は、会費・寄付金・その他の収入による。
2. この会の会費は、年額1,500円とする。ただし同一世帯に複数の会員がいるときは、2人目からは、年額1,000円とする。
3. 会計年度は、毎年4月1日から始まり翌年3月31日に終わる。

付 則

この会の会則は、1984年（昭和59年）8月26日から施行する。

一部改正 1991年8月11日、1994年5月21日、2000年4月15日
2006年4月15日、2007年4月14日

2010年 総会・講演会・懇親会のお知らせ

会員の皆様におかれましては、ご多忙の時節とは存じますが、ぜひご出席下さいませようご案内申し上げます。

日 時： 2010年4月10日（土）

場 所： 札幌エルプラザ 環境研修室 1・2号室
札幌市北区北8条西3丁目 TEL 011-728-1222

《 総 会 》 受付：午後12時45分から 総会：午後1時00分～午後2時30分
議事概要： 1) 2009年度事業報告 2) 2009年度決算報告・監査報告 3) 2010年度事業計画案
4) 2010年度予算案 5) 理事・役員選出 6) その他

《 講演会 》 受付 午後2時45分 講演会 午後3時～午後4時30分
演 題： 『身近に残された自然地の保全と利用
～ 石狩海岸と勇払原野を事例に ～』

講 師： 松島 肇 氏

〔博士(農学) 北海道大学大学院 農学研究院 花卉・緑地計画学研究室〕

講演要旨： かつては当たり前のようにあった身近な自然が近年、どんどん失われてきています。その背景には、身近に残された自然の価値を十分評価することなく開発してきた歴史があります。

これまで、日本の自然保護は希少種の保護に重点を置いてきましたが、気づけはありふれていたはずの身近な自然環境そのものが希少になりつつあるのです。このような身近な自然の重要性を認識する最良の方策は、実際に触れて感じることです。つまり保護するだけでなく、賢く利用することが身近な自然環境の保全には重要なのです。北海道の石狩海岸と勇払原野を事例に、なぜ希少なのか？なぜ保護するだけでなく利用が必要なのか？具体例とともに話したいと思えます。

講師プロフィール：

1972年 福井県生まれ 1978年に千葉県に移り、1992年より北海道民となる
1996年 北海道大学農学部卒講
2002年 北海道大学大学院農学研究科修了、同大学助手として勤務
2004年～2005年 マサチューセッツ大学アムハースト校 客員研究員
2007年 北海道大学大学院農学研究院 助教

《 懇親会 》 午後5時30分～午後7時30分
場 所： 「旬風処 遊一ゆとりー」 Tel:011-717-9666
札幌市北区北9条西3-19-1 ノルテプラザ1F
(JR札幌駅 北西口から北へ向かって徒歩5分)
会 費： 3,500円 (飲み放題)
会費当日受けます。

※人数確認のため、懇親会に出席希望の方は、

4月7日(水)までに事務局 武田治子までお知らせ下さい。

【連絡先】 FAX : 011-707-5621 E-mail: haru_t@nyc.odn.ne.jp

◎ 観察部から 総会当日に2010年度観察会予定表をお渡します。

各地域で使用する枚数を 観察部 山形 誠一へご連絡下さい。

TEL 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

◎ 理事の皆さんへ 当日午前11時30分から新旧合同の理事会を行います。



1月17日 苫小牧北大研究林で行った当会主催の観察会の様子が、北海道新聞の地方版に子どもの手に小鳥が乗っている写真とともに掲載され、これを見た方から意見が寄せられました。1月28日の理事会で検討し、会長が返書を送り、それについての返答がありましたので掲載します。

◎当会宛てにきた意見メール

札幌市北区在住〇〇と申します。野鳥関係活動をしております。

1月18日の北海道新聞地方版（苫小牧・日高）に、北大苫小牧研究林での観察会において小鳥を「手乗り」にしている記事が掲載されました。

昨今、いろいろな地域において、野鳥に対する餌やりの自粛、野鳥のみならず野生生物のペット化を自粛しようという動きがあります。本来の自然の姿ではないというのが根本思想と思います。

私自身は小鳥を「手乗り」にすることに反対です。子供たちにとってはとても楽しいことかもしれませんが、誤った自然感を持ってしまわないかと危惧しています。このことにつき、貴会の思想をお教えいただけたら幸いです。

◎後藤会長が送った返書

当会の主催しました苫小牧・北大研究林での自然観察会に対するご指摘、拝読いたしました。

問題の北海道新聞の記事もインターネットを通して読みました。記事を読んで、まず感じたことは「本当なんだろうか?」ということでした。私の60年を超える経験の中では、野鳥が手に乗ってくるなどということは、とても考えられなかったからです。

昨夜、北海道自然観察協議会の理事会がありましたので、苫小牧在住の理事から詳しい事情を聴きました。彼の話では、このような状態は珍しいことではなく、10年も昔から続いていることでした。北大研究林の関係者ということになしに、冬場には市民が餌を持ってやってくるのが恒常化し、人の姿を見ると野鳥のほうが集まってくる状態で、鳥ばかりでなくエゾリスなども体に乗ってくるということでした。

私どもが自然観察会を主催する際の基本姿勢は「自然に負荷をかけず、ありのままの姿を見てもらう」ということです。説明のために植物を手折るといことが全くないとは申しませんがそれも必要最小限で、かつ再生可能なものに限ります。私どもは、(財)日本自然保護協会が認定した自然観察指導員の集まりです。認定講習会のテキストとして使用している「自然観察ハンドブック」【(財)日本自然保護協会監修】では、「自然観察会でヘビがヒナを狙っているのを見た。どうすべ

きか」という問題に対して「静かにその場を立ち去る」ことが正しい行動であると説明しております。

今回の北大研究林における自然観察会は、新聞記事にも書かれていたように、冬芽や落葉した木々の樹肌や枝ぶりの違いなどを観察しながら2時間も林内を歩くものです。すべてが「手乗り野鳥と交流していた」のではないことは明かですが、新聞の記事にするとなれば、やはりインパクトのある写真、日常的でないインタビューを使いたいのではないかと思えます。

「ハルニレとヤチダモの区別がわかった！」よりも「手に乗った野鳥と目があってドッキリ！」のほうが”読ませる”記事になるのでしょうか。

新聞の取材・掲載は、私どもの活動を広く市民に伝え、自然愛好者を増やしてくれることに寄与するという点ではありがたいのですが“本当に書いてほしいこと”とは違ったことを強調されて当惑することが数多くあります。解決に頭を悩ませております。しかし、私どものほうに“手乗り野鳥と遊べる”ことを“売り”にして参加者を募るような意識が、仮にもあったとすれば、それは問題です。

今回、このようなご指摘があったことを会報「自然観察」などを通じて広く会員の皆さんにお知らせし、改めて”私たち自身の自然に対する接し方”を点検する機会にしたいと思えます。

貴重なご指摘をお寄せくださいましたことに感謝申し上げます、今後ともいろいろな面でご協力、ご指導いただきますようお願い申し上げます。

北海道自然観察協議会 会長 後藤 言行

◎投稿者からの会長回答に対する返信

札幌市北区の〇〇です。この度はご丁寧なご返事をいただきありがとうございます。私の問いかけに対し、ほぼご同様の考えを持っておられることと理解し、安堵しております。

類似の問題を含む記事は北海道新聞の札幌圏版にも載ることがあるのですが、ほぼその度に道新に電話しております。少なくとも札幌圏版では、この類の記事はあまり見られなくなったような気がします。ただ、札幌圏以外の版ですとまだ散見されます。道新全体として(地域の記者も含めて)考えて貰わないと徹底されず、なかなか難しい問題です。―― (以下略) ――

2009年度地方研修会「突哨山」報告

テ ー マ： 森を読むー樹林の成り立ちと人の関わりを知るワークショップ
 実 施 日： 2009年10月17日(土) 10:00 ~ 15:00
 場 所： 旭川市東鷹栖 突哨山
 講 師： 陣内 雄さん・清水 省吾さん(NPO「もりねっと」)、山本 牧さん(当会理事)
 参加人数： 14名

カタクリ群落で知られている突哨山をフィールドに、森をどう守っていくかを考える研修会でした。

突哨山は、約20年前にゴルフ場建設の計画が持ち上がったが、市民運動のかいあって、市と町がゴルフ場予定地を買い取り、市民参加でこの山を守っていくことになったところです。

講師は、この山の指定管理者を旭川市から受託しているNPO法人「もりねっと」のスタッフです。

(原部 剛)

<研修内容・感想>

午前は、シラカバの風倒地を見て広葉樹の植生遷移などの説明を受けました。この中で各種ネズミの剥製標本も見せていただきました。

昼食後、コウモリの剥製標本も見ながら、コウモリの興味深い話を聞きました。この山は、コウモリの宝庫ということでした。

最後に、手入れされていないため木が密集しているトドマツ人工林で、間伐の実習をしました。光の当たり具合などを考え、どの木を切ると周りの木の成長が良くなるかを考えて選木し、実際に木を伐倒しました。木の良い匂いが漂い、年輪を調べたら32年でした。

整備の目的、良い材を作る林業の考え方と、自然林に近い方向へ誘導しようとするときでは、選木にも大きな違いが出ることも学びました。

研修後の交流会は、近くの小屋(講師所有)まで移動して行いましたが、コウモリの話や初めての間伐の体験が良かったという感想など、なかなか雰囲気でした。

人工林など人の手が入った森を守るために必要な間伐を、選木から伐採まで実際に体験するができたことなど、講師のおかげで実のある研修会になったと思います。

参加者は、編集部の竹林さんや札幌の須田さんをはじめ、地元以外から7名の参加があり、うれしい限りでした。これまで、旭川での観察会や研修会へ地元以外の方の参加は、皆無に近い状態でしたが、今後は、一人でも多くの参加をよろしくお願いいたします。



小さな手鋸での作業です



ナタや手鋸で枝を払います

苫小牧市 ウトナイ湖 '09年10月25日

天候 曇 掲載紙 道新、朝日、読売、苫民報

<ハクチョウ(渡り鳥)の観察と森のお散歩>

曇りで、湖面から来る風が、13℃というのに少し寒さを感じるような天気でした。10数名の参加者なので、2班に分かれて実施しました。

例年並みのハクチョウ、ガン、カモなどが見られ、生活の仕方、渡りのルートなどの内容はウトナイ湖ならではのことと思います。

湖畔のハンノキ、コナラやマユミ、ツルウメモドキ、チョウセンゴミシなどの実、紅葉は少し過ぎてしまいましたがそれなりの眺めや、紅葉の仕組みの理解、ハナアブやアキアカネなども見られました。自然についての質問や対話など、適度な班編成で参加者の方々も生き生きしていました。

(谷口勇五郎 記)

北区 北大構内 '09年11月1日

天候 曇時々雨 掲載紙 道新生活情報紙 札歩路

<秋の北大構内～エルムの紅葉を楽しもう>

情報誌「札歩路」が観察会の案内を載せてくださったので悪天候の中でも集まっていただけました。低気圧の影響で低温と雨が気にかかる観察会のため、体感の寒さに注意しました。木の葉の枚数が少ない時期は、構内の壁や木々をよじ登るツタが目立ちました。アマチャヅル、アメリカヅタ、ガガイモ、カラハナソウ、クズ、ツタ、ツルウメモドキ、ツルタデ、ノイバラ、ヒロハレンリソウ、ボタンヅル、ミヤマニガウリ、ヤマブドウなどのつる性植物を見ました。ツタが全ての葉に日を受けさせるように葉柄の長短で調節をし、人工的な壁は吸盤でよじ登り、木は気根でしっかり張り付く様子を観ました。アケボノスギの球果が落下していて、製麦の小さな押麦のような種を見ることができました。圧巻は「黄金のトンネル」といわれているイチヨウ並木でした。

(須田 節 記)

苫小牧市 錦大沼公園 '09年11月8日

天候 霧 掲載紙 道新、朝日、読売、毎日、苫民報

<初冬の錦大沼～初冬の植物>

濃霧に包まれ公園の風景は水墨画の世界。公園全体が別次元のようだ。参加者がちょっと少なく寂しい。天候には勝てない。

そんな中、ゆっくりのんびり観察。人数が少ないぶん話も弾む。

冬芽の話、ロゼットによる植物の生育戦略、植物の枯れ痕、樹木。

湿原の成り立ちと環境変化による植物の住み分けなど多様な話題に盛り上がっていた。

(佐々木昌治 記)

北区 北大構内 '09年1月9日

天候 晴 掲載紙 道新、朝日、読売

<子どもの北大構内かんじき散歩と雪氷観察会>

自然に近い環境を観察できると思い、9回目の今年はスノーシューを履いて森の中と外、風上と風下など周囲の環境との違いを体感してもらいました。新雪が陽にきらめいて、立っただけで雪原は癒しの場となり冬の楽しさを満喫しました。

林の中は未熟なシンジュの種が目立ち、未熟なウバユリの種飛ばしが子どもに人気がありました。積雪深を測るゾンデ棒を使うように棒で雪の深さを測りましたが、場所による変化に意外性もあり、みんな集中しました。

積雪の状態は午前11時で気温 +4.2℃、積雪量 45cm～50cmでした。子どもたちは積雪観察作業と簡易顕微鏡を用いた雪の結晶観察に奮闘しました。

(須田 節 記)



さあ、かんじきの準備はよいですか

苫小牧市 北大研究林 '10年1月17日

天候 晴 掲載紙 道新、読売、苫民報、市広報

<冬の野鳥と冬芽の観察>

晴天で朝は -13.4℃と、この冬の最低気温になりましたが、日中は -1℃まで上昇し、風もなく行動しやすい日和でした。参加者は割と多く、2班に分けて実施しました。

駐車場の脇に植わっている、落葉針葉樹のカラマツにまつわる話から始めました。また、大きなヤチダモとハルニレを比べ、樹形や枝先の違い、持参した冬芽を見ながら比べました。

餌付けされたヤマガラ、ハシブトガラ、ゴジュウカラが近くの枝や手元に寄ってきます。

シカの食痕・足跡・糞などの観察、キツネやイヌ、ネコの足跡の違いなど真冬の動植物のすごし方を観察しました。

(谷口勇五郎 記)

中央区 円山公園 '10年2月18日

天候 晴 掲載紙

<冬に耐える植物>

暖冬予報のわりには気温の低い日が続き、寒い観察会を覚悟していましたが午前中は日射しに恵まれ、比較的暖かい中で観察会を行うことが出来ました。

オニグルミやトチノキの大きくて見やすい冬芽から、プラタナス、カツラ、カエデ、ニセアカシアなどの特徴的な冬芽、芽のつきかたと枝の伸び方など、この時期ならではの見所を見まわりました。

(山形 誠一 記)

— お 知 ら せ —

別府に移られた会員の杉浦功悦さんから 竹工芸展の案内が届きました。



第二回 杉浦 功悦 “竹芸の美”竹工芸展

2010年5月11日(火)～16日(日)
AM10:00～PM7:00
ギャラリー大通美術館
札幌市中央区大通西5丁目11大五ビル
TEL (011)231-1071



2010年度自然観察会参加指導員アンケートのお願い

自然に親しみ、自然を知り、自然を守る。私たちの観察会の意義を再認識しながらの1年でもあったのではないのでしょうか。そんな2009年度の観察会スケジュールも皆様のご活躍とご協力で、無事終えることができそうです。ありがとうございました。

さて2010年度の観察会は、2月末集計の段階で40回以上(滝野の集いを除く)の数を予定しています。観察会開催にあたっては、地域にとらわれず、多くの指導員の参加を募っています。

お手数ですが観察会への参加予定を、同封のアンケートはがきに記入のうえ、
3月31日までにご返送ください。

- ・アンケートはがきには研修会や救急講習会なども載せています。ご確認の上併せてご記入下さい。
- ・アンケートはあくまでも参加予定の確認ですので、当日の参加・不参加を拘束するものではありません。
- ・都合で参加できなくなった場合は、事前に必ず連絡先指導員に、ご一報ください。
- ・記入の際は、同封の「2010年度自然観察会の予定(指導員用)」を参照してください。
- ・アンケートの集計結果は、各観察会の連絡先指導員に直接お知らせします。また会報95号に同封します。

※なお観察会参加にあたっては、次の点に留意してください。

☆下見会は、観察会本番の準備というだけでなく、指導員同士の親睦を図り、また自己研鑽の場としての意味合いもあると思いますので、できるだけ参加されることをお勧めします。

☆観察会当日は不参加でも下見会に参加される方は、事前に連絡先指導員に連絡の上奮ってご参加ください。

◎あらたに2010年度中に観察会を開催予定の方は、観察部山形誠一までご連絡ください。

観 察 部

函館山を歩き始めて

函館市 時岡 浩和

一年目、早春のフクジュソウの黄色が雪に映えてきれいなことに感激し、エンレイソウが開花するまでに長い年月のかかることに驚き、スマイレの種類が多さにびっくりし、花々の素晴らしさにただただ驚きの年でした。

二年目、函館山の生き物たちにカメラを向けた年でした。山の人気者の人懐っこいシマリスたち、姿を見せることは少なくなったキタキツネ、山をめぐらとするカラスたち、そして津軽海峡を渡り旅をする蝶、アサギマダラの姿をすぐ近くに見た時は、その優雅な飛び方に時間がたつのを忘れてしまいました。北海道の山々につき物のヒグマやエゾシカがいないことで、安心して歩けるのも、この山の魅力でもあります。周囲9kmの中に多数の自然が生きついていることを知りました。

三年目、雪に閉ざされる冬にも樹木たちは次の春に向けて寒さを乗り切ろうとする戦略を立てていることを冬芽の観察や、落ちない葉をつけたままのカシワの樹から学びました。

四季折々に違う表情を見せてくれる函館山、毎日歩いても飽きない山です。そして今、観光地としても大変有名ですが、ただ夜景を見て楽しむだけでなく、ぜひとも一度歩いて登ってほしいなあという思いが日々強くなってきています。街の中といてもよい場所に、こんなにも緑があふれ、生き物たちの自然な姿を身近に感じられる場所があるのでしょうか。

またなぜこのように自然が今も残っているのかということも、わかってもらえるような活動ができればと思っているところです。

プラスチック！便利なグッズですが…

長沼町 杉山 ルミ

私の暮らす町は、札幌市から東へ車で1時間ほどの田園農村地帯です。名古屋からこの地へ移り住んで20年がたちました。都会育ちの私に、豊かな自然の営みを日々感じさせてくれる町です。自然が身近で子育てを心から楽しむことができた町でもあります。

そんな子育ての中で、生活の便利グッズ＝プラスチック製品について考える機会を頂きました。

記憶に新しいダイオキシン問題、環境ホルモンの問題、古くは水俣病など健康被害として注目さ

れた事件がたくさんあります。これらは石油化学製品“プラスチック”の製造・使用・廃棄のそれぞれの過程で起きています。知らなかったの？とおっしゃらないで下さい。よく分かっていませんでした。

町では長く「弁当箱方式」で学校給食を支給してきましたが、やっと「食管方式」に移行される見通しがたちました。

さて問題は、食管方式導入に際して採用する食器を「メラミン樹脂製」にするという事です。私は「えっ？」と思いました。

メラミン樹脂の原料のホルムアルデヒドには、発がん性があることや、燃えると有害ガスを発生させるということを知っていましたので…

一時期メラミン食器からホルムアルデヒドの溶出が問題になり、食品衛生法で溶出量の基準値が定められました。メーカー側の立場は『ホルムアルデヒドの溶出は少なからずありますが、基準値内ですので大丈夫です。ただしプラスチック製品は“正しい使い方”で使用して下さい。でないとう有害な物質が出たり、事故が起きたりする可能性があります。安全のためにはメーカーの使用上の注意に従って下さい。それ以外は自己責任ですよ。』と言うことのようにです。

我が町では小中高の12年間に渡り、次世代の子どもたちの三食の内一食を学校給食で供給しています。大人が子どもたちに与え続けるもので、子どもたちに原則選択肢はありません。

プラスチック製品がありとあらゆる物の代用品となつて50年、軽い・強い・安価・成形が容易・大量に生産できる・錆びたり腐ったりしない…夢のアイテムでした。

ところが、太平洋孤島、アホウドリの繁殖地では、成鳥になれず次々と餓死してゆくヒナ鳥がいます。ヒナの胃袋には、親鳥がせっせと運んだプラスチックごみがいっぱい…。ウミガメやオットセイなどの体内からも頻繁に発見されているそうです。

使い捨てられたプラスチックごみは、錆びない・腐らないという特性そのままに、海洋に漂っているのです。しかも有害物質を垂れ流し続けて…

自然界から警笛が聞こえてきます。

塩化ビニルの焼却で悪名高きダイオキシンの対策には、消費者が細かな分別作業を強いられています。プラスチックの原料や添加物を知って、自分の町の最終処分の仕方に沿った分別をしなければ

ばなりません。その上高度焼却炉施設の建設や維持管理に、多額な税金を投入し続けなければなりません。

また環境ホルモンの問題では、野生生物の異常が報告されていますし、人間の胎児にも生殖系異常が起こっています。これらは氷山の一角ですね。

私たちが問題に向き合い、選択を替えない限り、問題は静かに確実に広がっていきます。

人の形でもって生きている我が身ですが、自然の営みに生かされている命の一部です。自然の声に耳を傾け、その声を読み解く能力を少しでも磨きたいと思います。できる限りその声に従い、人社会の営みに活かしたいと思います。

まずは我が町の学校給食に、プラスチック製食器を採用することはやめ、強化磁器製食器を検討して戴くように働きかけをしているところです。

プラスチックの大量生産、大量消費を続けながら、次世代の環境も守るのは相反する選択で、矛盾していると思います。

私の今の課題は、自然界からの教を身近な生活の場で、如何に活かすかだと思っています。

子どもの「冬」のイメージ

七飯町 小野寺 徹

我が家の小学校3年生の娘が、冬休みの自由研究のテーマを「冬の草花」にすると聞いた。学校の図書室で同じタイトルの図書を見つけたようだ。本州以南の雪のない地方で冬に開花する野草や

園芸品種を載せた図鑑らしい。娘は、「冬に花を見たことないけど、探せば見つかると思う。」と言う。そのまま取り寄せたら、「探したけど何も見つからなかった。」というまとめで終わってしまいそうなので、少々困惑した。

それでもせっかく冬の野外観察に興味を示したので、自宅近くの小公園に行ってみることにした。

花を探すだけではすぐ終わりになってしまいそうなので、夏場に見られたものがどうなっているか予想させて、観察することにした。

①芝生の草は雪の下でどうなっているか?…枯れて茶色くなっている。

②タンポポはどうなっているか?…葉っぱが枯れている。

③桜の木は?…枯れている。

「夏場に青々と茂っていた草や木は、冬が来る前にすべて枯れてしまう。」というイメージが子どもの頭の中にできあがっているようだ。

公園の雪をシャベルで掘って緑色のクローバを見つけた娘は小さな感動を覚えたようだ。そして小さな小さなクローバの赤ちゃんも見つけて喜んでいた。タンポポのロゼットは残念ながら見つけられなかったが、桜の枝に冬越しの芽がついていることも娘にとっては大発見だったに違いない。

雪が降り積もってしまうとすべてを覆い隠してしまうがために、子どもの興味・関心も閉ざされてしまう物が多いのではないだろうか。寒さに耐え、春を待ちながら準備している生き物に気づかせたいものである。

会計からのお願い

まだの方は会費の納入をお願いします

- ・会費(1,500円)は年度ごとに納めていただきます。
- ・4月から新年度になります。 振込み用紙(払込取扱票)を同封しますのでご利用ください。すでに2010年度分を納めた方にも振込用紙が入っていますが送金しないで下さい。
- ・2月末日の納入状況で請求しています。行き違いで入金の方はお許しください。

○窓口通常払い込み手数料は120円、ATMでは80円です。

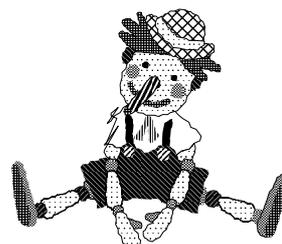
○通信欄は住所変更等の近況報告にお使いください。

差し支えなければメールアドレスを記入願います。

- ★退会の申し出があるまでは北海道自然観察協議会の会員です。届けが出されるまで、会費のお支払いをしていただきます。

★郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会

会計 畑中 嘉輔
小川 裕美





東区 モエレ沼公園 (09/10/25)

手稲区 中村 真奈美

カモ類は水辺の環境でないと出会う機会も少なく、今まであまり多くの種を見ることはありませんでした。当然のことながら双眼鏡を覗いても種を識別することもままならないのですが、今回の探鳥会では指導員やベテランの方々のお陰ですぐに名前を知る事が出来ました。

そこで改めて種名と図鑑を見比べるのですが、やはりカモ類は奥が深い！ この時期ならではの

換羽途中の微妙な色彩と模様。図鑑からはイメージし難いものも多く、フィールド観察ならではの醍醐味を味わうことが出来ました。

思えば以前、シノリガモやオシドリ不思議な配色や、コガモなどの持つ太陽光で微妙に変化する光沢のある緑の色彩、オナガガモの繊細な紋などに感激したものです。今回の探鳥会ではカモ類独特の魅力をさらに感じる事が出来、また時期を選ぶと身近にこんなにもカモ類を楽しめる場所があったことを知ることができました。

2010年度 自然観察協議会全道研修会のお知らせ

『 夏！、道北の特定植物群落7カ所を巡る 全道研修会に参加しませんか 』

◎ 7つの特定植物群落

サロベツ原野（豊富町・幌延町）、キモマ沼オゼコウホネ群落（猿払村）、
浜頓別ベニヤ海岸草原群落（ベニヤ原生花園）、クッチャロ湖湿原植生・ミズナラ海岸林、
斜内山道海岸崖植物群落（浜頓別町）

◎ 特定植物群落とは、

わが国の植物相を具体的に形づくっている植物群落のうち、規模や構造、分布等において代表的・典型的なもの、代替性のないもの、あるいはきわめて脆弱であり、放置すれば存続が危ぶまれるものなどの種類やその生育地、生育状況等を把握し、保護対策を検討する必要があるとして、環境省が貴重な群落として都道府県ごとに選定したものです。

日時： 2010年7月24日(土)～25日(日)

第1日： サロベツ原野（豊富町・幌延町）

第2日： オホーツク海岸の

キモマ沼オゼコウホネ群落（猿払村）
ベニヤ海岸草原群落（ベニヤ原生花園）
クッチャロ湖湿原植生・ミズナラ海岸林
斜内山道海岸崖植物群落（浜頓別町）
中頓別鍾乳洞（北海道指定天然記念物）

※ 両日とも現地ガイドの案内です。

集合： 7月24日

集合1地点 11:30 JR音威子府駅

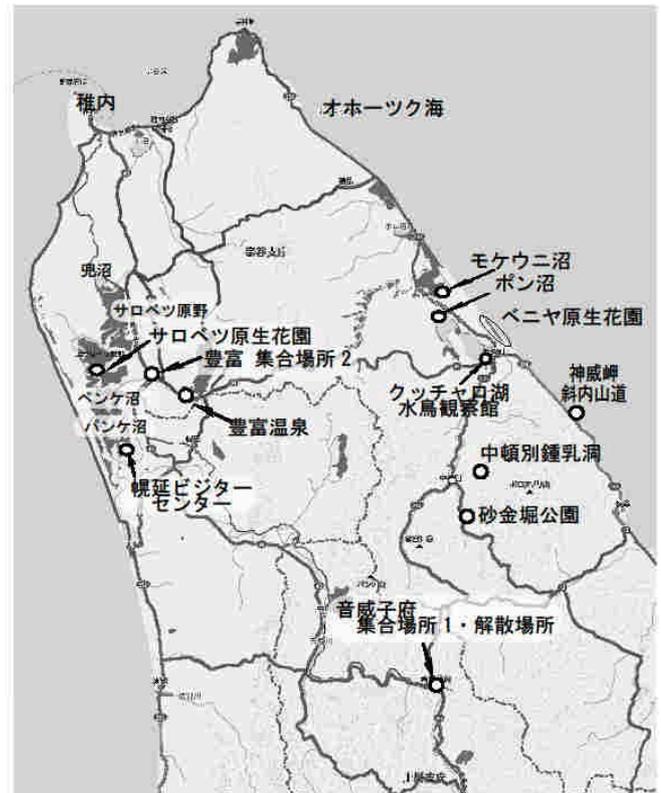
集合2地点 13:00 JR豊富温泉駅

解散： 7月25日 16:00 JR音威子府駅

交通： 7月24日 6:50 JR札幌駅北口
団体バス乗り場
【貸切バスで豊富駅へ】

宿泊： 豊富町「ニュー温泉閣ホテル」
TEL 0162-82-1243

※ 詳細や申し込み方法は、94号会報同封のチラシをご覧ください。問い合わせは、須田



TEL 011-752-7217へお願いします。



【事務局だより】

☆ 救急救命講習会が終わりました。

’10年2月6日(土) 10:00~16:00、かでの2.7(920会議室)で実施。

講師は、午前 日本赤十字社北海道支部、午後 (財)札幌市防災協会です。

受講者は9名。
(うち、一般参加者3名)

・AEDの使い方は、以前受けたことがあります
ありますが、時間をおいて何度もやらないと駄目ということを感じました。

☆ 札幌市にお住まいの加藤アキさんから
50,000円の寄付をいただきました。

☆ 総会・講演会は、4月10日(土)1時から
札幌エルプラザで行います。

☆ 観察会追加・変更の連絡は、観察部山形、広報担当岡田、事務局武田、HP担当竹林へお願いします。

項目	収入(円)	支出(円)
会場費(かでの2.7)		9,200
指導員派遣費(赤十字)		3,000
指導員交通費(赤十字)		880
駐車代(防災協会)		1,050
資料代(赤十字小冊子50円×9冊)	450	450
計	450	14,580
実際の支出	14,580	- 450 = 14,130
収支	予算 16,000円 - 実支出14,130円=	残額 1,870円

【理事会だより】 <理事会議事録から抜粋>

☆ 第5回理事会 ’10/ 1/28 札幌エルプラザ研修室
 ・2009年度事業報告・2010年度事業計画案—各部より
 ・2010年総会・講演会—日時、会場について
 ・苫小牧北大研究林観察会の報道について

☆ 第6回理事会 ’10/ 2/25 環境サポートセンター 多目的ホール
 ・2010年総会・講演会—講師、日程、準備等について
 ・2009年度事業報告確認・2010年度事業計画案について
 ・2009年度会計中間報告
 ・2010年度会計予算案について

北海道自然観察協議会のホームページ <http://www.noc-hokkaido.org/>

会費や寄付は -----> 郵便振替口座 02710-1-8768 北海道自然観察協議会
 -----> 会 計 畑中 嘉輔 札幌市豊平区西岡3条13丁目12-13
 Tel/Fax 011-581-5439

観察会保険料は -----> 郵便振替口座 02770-9-34461 北海道自然観察協議会観察保険料
 -----> 観察会担当会計 小川 祐美 小樽市望洋台3-13-5
 Tel/Fax 0134-51-5216

観察会報告書・資料は -----> 観 察 部 山形 誠一 札幌市中央区双子山1丁目12-14
 Tel/Fax 011-551-5481 E-mail seiichi.y@jcom.home.ne.jp

研修会関係は -----> 研 修 部 大表 章二 磯谷郡蘭越町蘭越町852-23
 Tel 0136-57-5610

退会、住所変更の連絡他は -----> 事 務 局 武田 治子 札幌市北区北34条西9丁目1-11グランドパレス103号
事故発生等緊急時は Tel/Fax 011-707-5621 E-mail haru_t@nyc.odn.ne.jp
 アスカ・リスクマネジメント 担当:本間氏 Tel 011-873-2655

投稿や原稿は -----> 編 集 部 竹林 正昭 北見市端野町3区378-3
 HP担当 Tel/Fax 0157-56-3357 E-mail hzx01204@nifty.com

表紙写真 竹林正昭



自然観察:2010年 3月 15日/第94号 年4回発行
 (会員の「自然観察」購読料と郵送料は会費に含まれています)
 発 行 **北海道自然観察協議会**
 編 集 北海道自然観察協議会編集部